

双葉FRHと無線LANとの比較

項目	双葉FRH	IEEE802.11b無線LAN	備考
無線端末	非インテリジェント機器 OS不要	インテリジェント機器 OS要	FRHはシリアルI/Fしか無い機器を容易にIP端末化できる。 (FRH08TJ)
周波数チャンネル	○ 最大94 同一エリアの使用可能な チャンネル数 47	△ 最大14 同一エリアで使用可能な チャンネル数 4	FRHは豊富な周波数チャンネルにより、混信の影響なしに同一 エリアで複数のシステムの運用が可能。 また、仮にデッドポイントが発生した場合にも、アクセスポ イントの増設により容易に対応できる。
占有周波数帯幅	1MHz	22MHz	
無線通信速度	△ 51.9kbps	○ 1Mbps - 11Mbps	IEEE801.11bは電波の状況により通信速度が変動。 FRHは通信速度固定。
通信距離	○ 屋内 60m 屋外 300m	△ 屋内 30m 屋外 70 - 150m	802.11bは周波数帯域が広いためマルチパスフェージングの影 響を受けやすく通信エリア内でもデッドポイントが発生しや すい。
マルチパスフェージ ング・干渉妨害対策	○ アンテナダイバシティ 周波数ダイバシティ	△ アンテナダイバシティ	FRHはアンテナダイバシティのほかにアクセスポイントを異 なる周波数で複数設置することにより、周波数ダイバシティ の効果も得られる。
共存特性	○	△	FRHは占有周波数帯域が狭く、チャンネル数が多いことか ら、他の無線システムとの共存が周波数分割により可能。 BluetoothやIEEE802.11bとも共存可。
ローミング	あり	あり	
安定供給	○	△	802.11bは民生用途が主流のため、製品のライフサイクルが短 く将来的なメンテナンスや供給に疑問がある。